道連ニュース

2009年８月号　No.38

北海道生活協同組合連合会
〒003-0803 札幌市白石区菊水３条４丁目1-3
全労済北海道会館内
TEL 011-841-8601　FAX 011-841-8605
URL：http://www.doren.coop

道連報告

コープさっぽろ第６回農業賞 現地審査が進んでいます！

８月11日、新得「共働学舎」での審査委員の記念撮影

消費者の目線で道内の意欲的な農業生産者に光を当てて表彰し、その生産品をお店・宅配トドックで供給する『コープさっぽろ農業賞』が2004年から始まって今年は６回目になり、今年も７月末から現地審査が始まっています。(2006年からは漁業部門もスタート)北海道生協連は当初から主催団体の１つとなり、また、昨年から費用の１部を負担するなどして応援しています。

今年の応募は農業の部119件、漁業の部９件、交流の部11件の139件で、この中から、６月中旬の審査委員会で現地審査対象として農業10件、漁業３件、交流３件が選ばれ、７月末から現地審査が始まりました。８月末までには漁業・交流各１件を残して現地審査が進んでいます。10月中旬には知事賞やコープさっぽろ大賞が決定され、11月中旬に表彰式が行われます。

このコープさっぽろ農業賞は当初の目的以上に多くの成果を生み出していて、全国的にも今注目されています。

８月12日、留萌「たこ箱漁オーナーinおびら実行委員会」現地審査（たこ箱引き上げ実演）の様子

北海道労済生協

第35回全労済北海道本部通常総代会 第56回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会 が終了しました

７月30日㈭ホテルポールスター札幌にて第35回全労済北海道本部通常総代会を開催しました。今総代会には総代定数130名中、書面議決を含む103名が出席し、「2007年度・2008年度計画（第５期計画）経過報告（案）」「2009年度～ 2013年度中期経営政策（案）」「2009年度～ 2010年度基本計画（案）」「2009年度北海道本部事業推進計画（案）」などを含む全６議案について、全体で承認がされました。引き続き、同会場において第56回北海道労働者共済生活協同組合総代会を開催し、「2008年度事業報告承認の件」「2008年度剰余金処分（案）承認の件」「2009年度事業計画設定の件」などの全８議案について、全体で承認がされました。たいへん厳しい事業環境の中であるからこそ、全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を実現するため役職員が一丸となって、協力団体・組合員の皆様の付託にこたえ、ともに運動・事業を前進させていくことを全体で確認し、総代会は無事終了しました。

総代会開催にあたって挨拶する峯後理事長

コープさっぽろ　2009年の函館地区の平和関連の取り組み

コープさっぽろ組合員活動函館地区委員会の平和の取り組みは、毎年日生協主催の『2009ピースアクション in ヒロシマ』の参加報告会と全店での原爆パネル展を開催しています。『ピースアクション in ヒロシマ』はコープさっぽろとして毎年参加しており、今年も全道から公募した大人９名・子ども８名・事務局３名の20名が８月４日から６日までの３日間の日程で参加し、各地区で参加報告会を開催して、感想や体験を組合員さんへ伝える活動をしています。

▶全道から20名が参加した「ピースアクションinヒロシマ」

▲函館地区の参加報告会の様子

函館地区のピースアクション in ヒロシマ参加報告会は８月22日(土)、函館市民会館にて『平和の尊さを今一度！』をテーマに開催しました。報告会の内容は、ピースアクション in ヒロシマ参加者報告会、原爆のアニメの上映、絵本の読み聞かせ、折り鶴体験・米つき体験・すいとんの試食、弦楽四重奏演奏（北大水産学部交響楽団）、広島・長崎の原爆パネル展示などを行い、参加者は大人59名、子ども37名でした。

店舗のパネル展は函館市８店舗、北斗市１店舗の合わせて９店舗で、７月15日～21日の１週間の開催。各店２～３枚の広島原爆のパネルを展示し、店舗での折り鶴の作成も呼びかけました。コープ会や店舗の組合員・店舗の職員などの協力もあり函館地区は9,000羽の折り鶴が集まりました。コープさっぽろ全地区では33,000羽の折り鶴が集まり『ピースアクション in ヒロシマ』の参加者が原爆の子の像に納めてきました。

今後は各コープ会や色々な集まりで『ピースアクション in ヒロシマ』へ参加した貴重な体験を多くの方に伝え平和について考える機会を持ちたいと思います。

生活クラブ生協　ヒロシマ・ナガサキ平和行動に参加しました

初めての「ナガサキ平和行動」に9名が参加

1945年８月９日午前11時２分、広島原爆投下からわずか３日後、長崎にプルトニウム爆弾が投下され、強力な放射線と数千度もの熱線と猛烈な爆風が長崎の街を襲い、約74,000人の命が一瞬にして奪われました。人類絶滅兵器・原子爆弾が広島・長崎の地に投下されてから64年、広島では5,635人、長崎では3,304人の方が今年１年で亡くなりました。今なお被爆者の苦しみは続いています。

1994年から始めた「ヒロシマ平和行動」への参加は、1997年から、「被爆地広島へ参加」「ピースリボン・折り鶴での参加」「カンパでの参加」とより多くの組合員が平和を考える機会になるようにとその参加方法を広げ、2003年からは次世代に繋げようと中高生への参加を積極的に呼びかけてきました。15年目を迎えた今年度は「ヒロシマ平和行動」を「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」と名称を改め、もう一つの被爆地である長崎を加えた平和行動へと活動を発展させました。

「怒りの広島」「祈りの長崎」と言われる二つの被爆地。私たちはその日、何が起こったのか、なぜ原爆が落とされたのか、その時代背景にあるものは何かをしっかり受け止めなければなりません。直接被爆地に赴き、自らの五感をフル活動させ「感じること」「知ること」は戦争の悲惨さを語り継ぎ、核兵器のない平和な世界を願い「行動すること」へとつながる「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」の大きな柱となります。

ナガサキ平和行動の視点は３つ。「被害」「加害」そして「平和教育」です。特に「平和教育」ではこれからの時代を担う若い世代への核廃絶に向けた取り組みに重点を置き、原爆投下日に山里小学校（旧山里国民学校）で行われている特別授業の参観や「平和の大使」として100万人の署名活動を展開している地元の高校生との交流を取り入れました。

初めてナガサキ平和行動に参加した中高生４名を含む９名。10月24日(土)には報告集会を開きます。感性豊かな彼らが何を感じ、思い、学びとったのか、是非、聞きに来て下さい。

長崎の高校生と交流した記念撮影